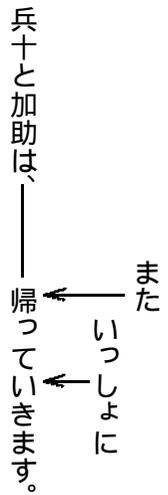


115 兵十と加助は、またいっしょに帰っていきます。



・すぐくつづきを聞きたいと思ってた。そうだね。これまでのごんとはちょっと違う。それくらい、兵十と加助の話が気になってしかたなかったんだね。

兵十が帰っていくのを確認するごん。たくさんの村人がいただろう。月夜とはいえ、見えづらい夜の中で、二人を確認したということは、出てくる村人達をじっと見ている（兵十をさがしている）ごんの姿がある。

まずわかることは？
 ・兵十と加助は、帰っていきます。
 ・帰っていくようすは、またいっしょにです。
 ・「帰っていきます」と、すきなむすで書いてあるね。
 ・ごんの目で見ている。
 ・ごんになりきっている。
 そうだ。じゃあ、ごんになって、この光景を頭に描いてみてよ。「またいっしょに」というのは？

また 既出
 辭 再び。もう一度。更に。「又・復」「い
 すれ 伺います」 同じく。やはり。「又・亦」

「それも よからう」「これ」も 傑作だ」
 くつづく 遠のき態 既出
 すきなむす表現 既出

・来たときと同じ。
 そうだね。ところで、ここに来たときは、兵十と加助だけだったよね。ところが、お念仏の終わった今は？
 ・村の人がたくさん出てきている。
 そうだ。しかも今は？
 ・夜。
 ・さあ、そいつとごんから、ごんの目で見るとだよ。どう？
 ・ごんは、出てくる村人をじっと見ている。
 ・兵十はまだかなあと思っで見ている。
 ・薄暗くてはつきり見えないけど、兵十の姿はすぐわかった。
 ・どこからそんなことがわかるの？
 ・だって、今までずっと兵十のことばかり見てきているから。

なるほど。
 いずれにしても、ごんは、注意して兵十が出てくるのを探してたんだらうね。そしたら、来たときと同じように……。
 ・加助といっしょに帰っていった。
 ・「帰っていきます」だね。今までも出てきたよ。

116
 ごんは、二人の話を聞こうと思って、
 ついていきました。



・ごんから見ても、遠ざかっている。
 ・ごんは井戸のそばにしゃがんだままで、兵十と加助はそこから向こうに向かって歩いていく。
 ・ごんは、帰っていく後ろ姿を見ている。
 ・まだ、ほかの村人がいたりするから、すぐは動けないんだけど、また一人で帰っていつているなと思っ
 ている。
 そうだね。井戸のところで、しっかりと兵十と加助
 を見ているんだ。

ごんが井戸のそばにずっとしゃがんで待っていた理由
 がここで明確になる。ただ、どんな話に興味があったの
 かは書いてない。

まずわかることは？
 ・ごんは、思っ。
 ・思ったなかみは、二人の話を聞こうとです。
 ・ごんは、ついていきました。
 つまり、ここまで待っていた気持ちもはっきりした
 ね。
 ・やっぱり二人の話が聞きたかったんだ。
 ・うんと気になっていた。

中止形 既出

この場合は、理由。

そうだね。ごんは、二人の話の何が聞きたかったん
 だろっね。
 ・自分のことが出てくるかなあと期待してる。
 ・みつきは、変なこともあるもんだなあ、で終わって
 るので、そのつづきが聞きたい。
 フリートーク (答えを求めない)
 そして、ごんは・・・？
 ・ついていきました。
 さつきは、「つけていきました」、だったね。今度は
 「ついていきました」だ。どっちがっ..
 ・つけていくといつのは、「っそり」と見つからないよ
 うに履行することだけど、ついていくといったら、
 見つからないようにとかは関係ない。
 ・ただ、後ろをついていく。
 ・でも、見つからないように気をつけているんじゃない
 かなあ。
 そうだね。つけていくといつのは違っけど、その
 よつすは同じかもしれないね。でも、もしかしたら、
 気持ちは違っているのかもしれないよ。

ふみふみ いきました。
ふみながら いきました。

どんな感じがしますか？

「ふみふみ」というほうが、一步一步ていねいにふんでいるような感じがする。

「ふみながら」は、すすつとふんでいる感じ。こつちのほうが、ついでの動きっていう感じが強い。

そうだね。絵にすれば同じなんだけど、「ふみふみ」のほつがしっかりふんでいるような感じがするかもしれないね。

これは、ごんの気持ちがありそつだ。

ごんの気持ちを考えてみてごらん。

ごんは、兵十の近くにいたい。

兵十に姿を見せたいけど、それはできないから、せめてかけとだけでもいっしょにいたい。

こつそり兵十のそばにいたいんだ。

うん。かけほつしをふんでいるということは、ごんは兵十の近くにいるということだね。これって・・・？

すごく危険。

見つかるかもしれないよ。

そつだよね。前ときには、加助が振り向いたただけでびくつとして、びくくりしたんだよね。なのに、今は、兵十のかけほつしをふみふみいつているんだ。話を聞くだけだったら・・・？

もつ少し離れてもいい。

そんな危険を冒してまでごんは兵十のかけほつしをふみふみいつているんだ。つまり、それくらいごんは・・・。

兵十のそばにいたい。

兵十と一緒にいたい。

兵十のことが好きなんだよ。

そつだね。ごんの気持ちは、とても兵十の方に向いているんだ。でも、姿を現すことはできない。

さて、この文、ちゃんと絵になるかな？

どこに月があつて、かけがどうなっているのかも考えて、頭の中に絵をかいてごらん。うかんできましたか？

どんな絵が頭に描けたか、発表させてもいい。

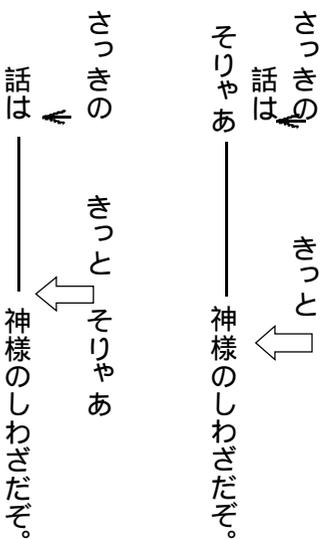
しだす 局面動詞？

運動の過程の部分となる動作や変化をあらわす文法的
あわせ動詞。

「しはじめる」「こつこつける」「ごおむる」

「しだす」「は、」「しはじめる」と同じと考えればいい。

119 「さっきの話は、きくと、そりゃあ、
神様のしわざだぞ。」「



題目語

【文法】 題目語は、さしだしの機能をもつ文の部分で
あり、文の内容的なくみたてにも参加しているが、述
語との関係が直接的でないものである。

あとのことは 弁護士も力をそえる

エサは リンゴをもっていった

題目語のしめすモノが あとの文の部分のなかでおな

とるで、その間「んはどつだったんだろつ？」
・ずっと、兵十のかげぼうしをふみふみ歩いてた。
・それはおかしいよ。道は曲がったりするから、かげ
がいつも後ろにできるわけじゃないもの。
・兵十の後ろについて歩いていたのは同じだと思う。
・早く話をしないかなあと思ってた。
・兵十の近くにずっといるわけだから、けっこうしあ
わせだったりして……。
いろいろ考えられるけど、たぶん、兵十のすぐ後ろ
をついてきたのは確かだろつね。そして、何を話す
だろつと、耳を澄ませていたんだ。
そんな時に、加助が話し始めた。兵十ではなく。

加助は、ずっと考えていたようだ。兵十の話を真剣
に聞いていたのだ。
そして、考えた末に、神様のしわざにちがいないと
結論つけた。それほど「へんな」話だった。この村で
は、そういうことをする人間が思い当たらなかったの
だろつ。

加助の言ったことだね。何について言っているの？
・さっきの話について。
・兵十が言った話。
・だれだか知らないけど、くりやまつたけを毎日毎日
くれるという話。
そうだね。その話を言いたしたんだ。
二人は、お念仏に行く途中からずっとだまっていた
んだよね。ということは、加助はその間どうだった
ということがわかる？
・兵十の話を聞いて、ずっと考えていた。
・そんなことをするのはだれだろつと、考えていた。
・兵十の話を信じて、そのなかみを考えていたんだ。
加助は、兵十の話を聞いて、最後にはどう言ったか

じ単語や同類の単語 または「これ」「それ」「この」「その」などでくりかえされているものがある。

サルは 屋久島のサルをつかつた
順序は もちろん 会のときの順序にしたがいたい
諸般の問題は いちおう これを検討せねばならぬ
八ダカのかたちで題目語になって それを「これ」「それ」「この」「その」などでうけるものがある

あたらしい生涯 それが連太郎には偶然の身の
つまりきから ひらけた ものである

自業自得 そんなことはもかれはいった
「注」この種の題目語は「提示語」とよばれてきた。

きつと 陳述副詞 既出

きつと 話し手が聞き手より強く認識を要する語。
必す。「彼は来る」**きつと**「忘れないでね」**きつと**「き
まつて」。「上京のたびに」**きつと**「話し手の断乎（だん
こ）とした気持を表す語。間違はなく。たしかに」。「申
じつけたぞ」**きつと**「急度」「屹度」と書いた。
きびしい、またけわしい気持を表した顔つきになるさ
ま。「なる」「にらみつけな

しわざ 言葉

辞（人が）する行い。ふるまい。また、実際にした行為。
「ひどい」だ

（自分にとって）よく（思わしく）ない結果を招く 相
手や第三者の行為。

用例・作例

みんなきさまの「し」やった事」だな

あいつの「し」違え無こ

ぞ 終助辞 既出

話し手のほうが聞き手より強く認識している情報を聞
き手に伝えて、聞き手に注意をうながす文に使われる。
「ぞ」「は」話し手が相手の認識を高める必要を感じて
発言するときに使われる点で、「や」「と」共通である。しか
し、「ぞ」「は」が使われるのは、相手に、その認識によって何
らかの行為をすることを期待する発言の場合であって、
相手への「ぞ」「は」「や」「と」より強こ。

というつ？

・へえ、変なこともあるもんだなあ。

変なことだと思つた。でも、そのことを真剣に考え
ていたんだね。

そして、加助が思つたのは？

・神様のしわざだ。

・くりやまつたけなどをもつてきてくれるのは、神様
だと思つた。

そう。しわざというのは、だれかのしたことなんだ
けど、どちらかというつと、よくないことに使つんだ。

「これ、だれのしわざだ！」「なんてね。

でも、「この場合は、よくないことなのかな。

・うん、くりやまつたけをもつてきてくれるんだか
ら、こいじや。

でも、兵十にとつてみたら、気持ち悪いよ。だれか
わらないんだから。

そうだね。くりやまつたけをくれるというのには悪い
ことじゃないけど、正体がわからないというのは気
持のいいものじゃない。だから加助はなんて言っ
たかというつ？

・変なじや。

そう思っているから、しわざだ、というふうと言っ

たんだろつね。しかも、そのしわざはだれのかとい
うつ？

・神様。

神様がやっていることだと、加助は考えたんだね。

それも、「きつと」って言ってるよ。「きつと」とい

っているんだから、加助は「・・・」？

・絶対そうだと思つている。

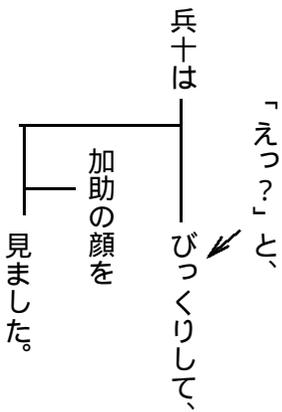
・間違いないと思つている。

そうだね。加助が想像していることだけど、加助は
間違はなく神様のしわざだと思つているんだね。

そんなことを、ずっとだまって歩いてきたときに、
急に言いだしたんだ。

そんなじや、急に言われた兵十は、どう思つたんだ
ろ。兵十のほうを読んでみよ。

120 「えっ？」
と、兵十はびっくりして、加助の顔
を見ました。



加助のことばに、兵十はびっくりした。兵十が思っ
てもいなかったなみだった。思わず加助の顔を見
ずにはおれない兵十。

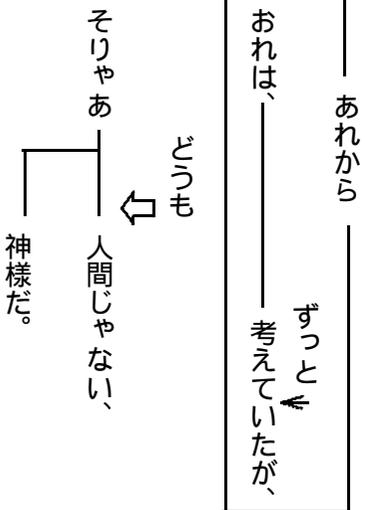
二つのことがあるね。

- ・兵十は、びっくりしました。
- ・兵十は、見ました。
- ・びっくりしたようすは、「えっ？」と、です。
- ・見たのは、加助の顔です。
- ・まず、「えっ？」と、びっくりしたんだ。
- ・「？」がついているね。
- ・加助の言っていることがよくわからなかった。
- ・何言ってるの？という感じだった。
- ・思ってもいないことをいわれた。
- ・うん。びっくりしたんだ。

そして、加助の顔を見た。これは、どついつ気持ち？
・神様だなんて、冗談だろ、どついつ気持ち。
・こついつことつて、みんなにもあるんじゃないかな。
・自分が思ってもいなかったことを相手が言ったとき、
・思わず、相手の顔を見るっていつこと。

このときの兵十も、そんな気持ちだったんだろうね。

121 「おれは、あれからずっと考えていた
が、どうも、そりゃ、人間じゃない、
神様だ。神様が、おまえがたった一
人になったのを、あわれに思わしゃ
って、いろんな物をめぐんでくださ
るんだよ。」

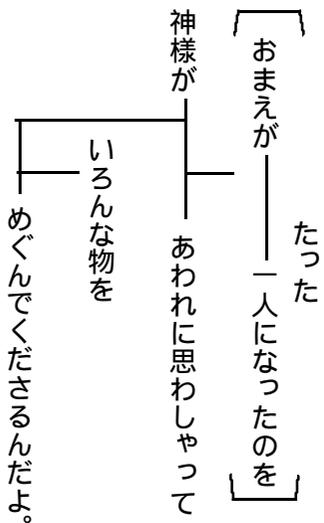


神様のしわざだと言った加助。これでは、あまりに
説明不足だ。兵十のことばが出る前に、どついつそつ
考えたかを説明し始めた。

お念仏の影響がなかったとはいえないだろう。しか
し、加助はまじめに言っている。

兵十が「えっ？」と言つてすぐに加助はしゃべつて
いるね。わかることは？

- ・兵十がびっくりしたから。
- ・兵十が、なんのこと？みたいな顔をしたから、何が
言いたいかすぐつけくわえた。
- ・そつだね。「神様のしわざだ」なんて急に言われた
ら、なんのことかわからないものね。それで、加助
は説明を続けたんだ。
- ・さて、最初のせりふ、言っているなかが二つある
けれど、何々？
- ・おれはかんがえていたが、と、そりゃあ、神様だ、
です。
- ・そりゃあ、人間じゃない、というのもあります。
- ・いいね。では、はじめのほうからわかることは？
- ・あれから、というのは、兵十に話を聞いてからだと思
います。



【副】 はなはだしい開きがあるさま。段違いに。はるかに。「彼の方がえらい」「昔」「初めから、または長い間続けて。」「立ち通しだ」「めらわずに通るさま。ずかと。すいと。」

【文法】 「が・じくじが」 既出

くいちがうふたつのことをならべる

- ・ 日は くれたが、だれも かえって こない。
- ・ かれは よく あそんだが、彼女は もっと

よく あそんだ。

先行節が前提をあらわす。

・ きのう みんなで山へのほったが、わたしはとちゅうでらくした。

・ さつきかかれに きいたが そんなことはなかったよ。うだ。

【ソノダの文脈的な用法】 既出

はなし手すすぐまえにいったことや、これからいうことは、ソ系であらわす。きき手がすすぐまえにいったことや、はなし手すすぐまえにいったことで、きき手によく理解されたとおもわれることは、ソ系であらわす。また、話のはじまる以前から、はなし手ときき手に、おなじように、よくしられていることなどをさすときには、ア系をつかう。

【哀れ あわれ】

【辞】 哀れ・×憐れ 【名・タナ】 かわいそうだと

思つ心。ふびん。また、同情を引くこと。「」を催す「

【哀れ】 「名・タナ」 人の心を強く打つような感動。しみじみとした情趣。「物の」を解する人「 感動して発する「あ、はれ」から出た語か。

「変なこともあるもんだなあ。」と言って、だまっからだと思えます。

・ ずつとだから、歩いているときも、念仏の時も考えていたと思えます。

・ 加助は、兵十が言ったことを真剣に聞いて、考えていたと言つことがわかります。

・ そうだね。加助は、兵十から話を聞いてからずつと考えていたんだ。それだけ一生懸命考えたと言つことだろうね。

・ そして、その次に言ったことからわかることは？

・ くりやまつたけをもつてきてくれるのは、人間じゃなくて、神様だと言っています。

・ 一生懸命考えれば考えるほど、だれか人がしているというの、考えられない。

・ お念仏があつたから、神様じゃないかなあと思ったんじゃないの？

・ いずれにしても、加助がずつと考えて出した結論が、神様のしわざということなんだね。

・ では、次のことばでわかることは？ちよつとややしい言い方をしているの、ていねいに読んでみるよ。

・ だれがどうしたと言っているの？

・ 神様が、めぐんでくださるんだよ。

・ 神様が、あわれにおもわしゃって。

・ うん。神様のことを言っているんだね。まず、神様が、あわれにおもわしゃって、これは、ていねいな言い方で、思われてとか、お思いになつてというのと、だいたい同じだ。あわれに思つて、どういう気持ち？

・ かわいそうだなあと思つている。

・ かわいそう、という気持ちなんだ。ただ、みんながよく使つかわいそうとは、ちよつと違つかもしれない。ほかのむずかしい言い方でね、不憫ともいうんだ。相手に同情している気持ちがあるんだ。

・ さて、何をあわれに思つたというのだろう？

・ 兵十。

・ 兵十をあわれに思つて、と言つている？

・ おまえがたつた一人になつたのを。

・ そうだね。兵十がたつた一人になつたことをあわれに思つていると言つているんだ。

・ これ、神様がそう思つていると加助は言っているのだけど、本当はどつなんだらう？

・ そんなことはわからない。

・ 加助がそう思つているから、こんなことを言つてい

派生”さ”げ”がる*

めぐむ 贈む・×抽む

【辞】「五他」情けをかける。ア、慈愛の心をかける。

恩恵を与える。「まれた生活」「資源に「まれている」

現在では、普通、受身の形で使つ。イ、施し物をす

る。あわれに思つて金銭や品物を与える。「人に金を「

る。

・加助が、ひとりぼっちになった兵十をかわいそうだなあと思っているんじゃないの。

・神様が、といいながら、ほんとは加助が思っていることなのかもしれないね。兵十がたった一人になったのが、かわいそうでならないんだらうね。

で、次に言っていることは？

・神様がめぐんでくださる。

・いろいろな物をめぐんでくださる。

めぐむというのは、どついつのこと？

・あわれに思つて、お金や品物をあたえること。

やはり、かわいそうだという気持ちがあるんだ。

・こここの加助のせりふ全体で、ほかにわかることない？

・加助は、完全に神様がしたことだと思っている。

・加助は、兵十のことが好きだから、こんなふうに言つたんじゃないのかな。

加助の気持ちも、いろいろわかってくるね。

122 「そうかなあ。」

そうかなあ。

・加助の自信のあることばに対し、兵十は臍に落ちない。生半可な返事を返すしかない。

・神様というのは、あまりに突飛なのだ。

・加助のことばに、兵十は、そうかなあとしか言っていないね。どついつ気持ちなんだらう？

・信じられない。

・加助が言っていることが納得できない。

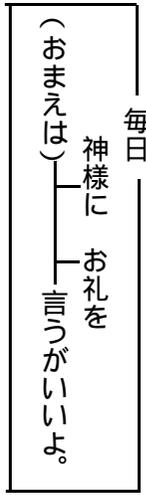
・

・なんか、念仏に行くときと反対になっている。

123 「そつだとも。だから、毎日、神様に
お礼を言う方がいいよ。」

そつだとも。

だから、



…とも 終助 既出

だから

【辞】「接」前に言った事柄が、後から言う事柄の原因・理由になる意を表す。それであるから、それゆえ。「たいへん疲れた。早く寝た」「言ったではないか」

【文法】…するがいい (…するとい…すべいいい?)

加助は、完全に決めつけている。神様に違いないのだから、お礼を言えと言っているのだ。つまり、お祈りしなさいと言つことだろつつか？

そつだともって、何が？

・神様がめぐんでくださるといこと。

ところで、だとも、というの、前にでてきたよね。

・前に、兵十が「ほんとだとも」って言っている。

・やっぱり、前の時と逆になつてゐるみたいだ。

・もちろん、という意味がありました。

つまり加助の気持ちは？

・絶対、神様だと、自信いっぱい。

・自信満々。

そして、つぎのことば。だから。どうだから？

・神様がめぐんでくださるんだから。

そつだね。そつだから、どうだと言っているのかな？

・神様にお礼を言う方がいいよ。

毎日、言うがいい。

神様にお礼を言つ、っていつのは、どうすることなのかな？

・お祈りすること？

・お念仏を唱えるんだ。

神様にお礼を言つていっても、直接言えるわけないのだから、心でしっかりお祈りするということなんだろつかね。

「うん、うん、」言方がいいよ、「と」言ってるね。ぶつづの言い方にしたら、うん、うん、なるんだろつね。

・言ったほうがいいよ。

・言わないといけないよ。

どすどすかといつて、言つたほうがいいよと、すすめていゐるんだろつね。

目的をみたら、条件をあらわす。

すすめや許可をあらわす。

希望をあらわす。

本文の場合、の「すすめ」は、おぼえては、おぼえださるう。

うん。

加助のことばに納得したわけではないが、ほかに考えられることもなく、生半可な同意をするしかなかった。また、神様にお礼を言つたというのは、拒否するよ
うなことでもなかっただろう。

加助のことばに対して、兵十の返事は？

・うん。

どついつ気持ちで言ったんだろつね。前は、「そんなあめ」と言つてるんだみ。

・なんか、すつきりしないけど、言い返せない。

・加助の言っていることを全部信じるわけじゃないけど、まあいいか、みたいな感じで。

言い方はどつだと思つ？

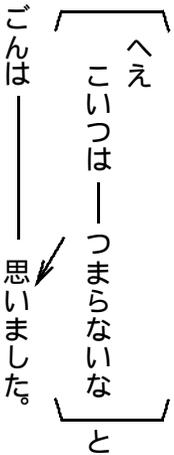
・小さな声で言っていると思つ。

・はつきりしないような言い方。

実際に言ってみてごらん。

* 加助のことばに続けて言わせてみる。

125 ごんは、「へえ、こいつはつまらないな。」と思いました。



へえ

【辞】(感)

(1) 驚いたり、感心したり、疑ったりした時にいう言葉。彼が結婚したとねえ」「、本当かね」

(2) (主に関西地方で女性が) 応答・承諾などに用いる語。「おおねに」

【ひびく】

【辞】(代)「こやつ」の転

(1) 三人称。その場にいる人をののしったり、また親愛の気持ちからぞんざいという場合などに用いる。この人。「が犯

二人の話は、神様にお礼を言つたということになった。どついつ話になるだろつと、興味津々で(期待して)聞いていたごんは、意外な結論に驚き、これではつまらないと思つた。

まずわかることは？

・ごんは、思いました。

・思つたなかみは、「へえ、こいつはつまらないな。」です。

加助と兵十のやりとりを聞いていて、ごんが思つたことだね。では、思つたなかみについて考えよう。

へえ、というのは、どついつときと言つ？

・びつくりしたとき。

・すごいなあと思つたりするときも使つ。

「ここではどうなんだろう？」

・ごんが思つてもいない話になったので、びつくりしている。

・すくすくびつくりしてゐるって言つたじゃなくて、軽く驚いてごん。

そつだね。ちよつとびつくりしたんだ。そして、どつと思つたかといつと？

・こいつはつまらないな、と思つた。

人です」「、思ったより手ごわいな

(2) 近称の指示代名詞。その場にある物や事柄を指し示す。これ。「この物」「は、うまこ」「は、面白こ」

【おもしろい】

【辞】(連語)(動詞)「詰まる」の未然形に助動詞「ない」の付いたもの。「おもしろぬ」「つまらぬ」「つまんない」の形も用いられる

(1) 満足感がなくてさびしい。心が楽しくない。「話し相手がない」

(2) 興味がない。おもしろくない。「ない小説」

(3) とりあげるだけの価値がない。取るに足りない。「つまない」

「ないものですが、召し上がって下さい」「ないつわぬ」

(4) ばかばかしい。不利益だ。「盗まれてはない」

(5) 得るところが少ない。するかいがない。「ないやせ我慢をしたものだ」

「派生」 なげ(形動) なげ(名)

本文の場合は(2)か(3)だと思われるが、子どもたちの世界で

は、ほとんどが(1)(2)の意味で使われているだろうから、

ほかの意味も教えておく価値があるだろう。

「いつって？」

・まつたけとかをもっていつているのが、神様だといふこと。

・神様にお礼を言いつ。

そつ。そのことがつまらないと言っている。つまらないといつのは、どつどついつ気持ち。

・おもしろくない。

・楽しくない。

・どびついときにも言つ。

そつだね。ふつっは、おもしろくないっていつときに使つちね。じゃあ、この場合は、

・神様がしていることになったのが、おもしろくない。

・神様にお礼を言つことになったのが、おもしろくない。

い。

なるほど。それでもいいみたいだ。

でも、ほかに、「つまらない」の意味があるんだ。

参考までに考えてみて。

ア、こんなことで、先生にじかられたのはつまらない。

イ、おもしろくないけんかをしたものだ。

アはね、ばかばかしいという気持ちがある。

イは、するかいがない、やってもいいことがないとい

う気持ちがあるんだ。

ごんの気持ちに、これに似たものはないかな？

・イのほうで、近いような気がする。

・ばかばかしいという気持ちもあると思うよ。

そつだね。つまらない、といつのは、ただおもしろくないというだけじゃないんだ。よくにているいる

んな気持ちがあるんだ。ごんの気持ちも、そんな気

持ちは混じった感じかもしれないね。

ななめ

(2)相手の非を責め、なじる気持ちを表す。「知りませんって言えはいい」「以前からのお知り合いでいらっしやっただねえ」

ひきあう あぶ 引き合う

【辞】(動)五「八四」

- (1)互いにひきあう。「綱を」
- (2)引き受けて損得がつりあう。割りにあう。また、もつけがある。「面倒だが十分」
- (3)努力する価値がある。「苦労して叱られたのでは」
- (4)取引する。約束する。「先刻内々」
- (5)可愛らしい弁才女滑稽本・藤栗毛

こっぴどくけんめい走ったのに、勝てなかった。

「こっぴどくけんめい走ったけど、勝てなかったといふ」

「じゃあ、くさくさが」といっしょだ。

「すくいねえ。」の「と」というのは、「くれど」「が」などと同じように、「くさくさが」「をあらわすんだ。」

でも、まったく同じじゃあないみたいだよ。今度は、次の例で考えてみてほしい。

比較

毎日世話をしたのに、花はかれた。

毎日世話をしたけれど、花はかれた。

「」の「」のほつが、気持ちが強い感じがする。

・残念だなあという気持ちがある。

・くさくさいという気持ちもある。

「そうなんだね。」の「と」というのは、「くさくさが」「なんだけど、そこには、不満とか、期待したようにはならなくて残念だ」というような気持ちがあるんだ。

「」の「」の場合も、そういう気持ちがあるんだら

う。おれがくりやまつたけを持って行ってやる、といふこととくさくさがうこととで、不満に思うことが次にあるんだ。それは……」

・そのおれには、お礼を言わない。

・神様にお礼を言う。

「は、そのおれ」となっているね。「」の「」っていうのは、

・くりやまつたけを持って行ってやるおれ。

・実際にやっているおれ。

そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言う

と……」

・不満をもっている。

・残念だ、くさくさいと思っている。

「すくいねえ。」

・おれは引き合わないなあ。

「」引き合う「と」というのは、ひきあう「と」といっしょだ。

・わりに合う。

・努力する価値がある。

つまり、おれは引き合わないなあ、と……」

・おれは、割りに合わないなあ。

